

文字もじ MOJI の世界

25. 遊びながら書体を知る「フォントかるた」

伊達千代*



「愛のあるユニークで豊かな書体。」は、写研の見本帳の文言

「フォントかるた」の取り札 48 枚に書かれているのは、すべて同じ文言。しかし使っている書体は異なる。書体名や解説を詠み上げ、その書体で書かれている札を取るかるたゲームだ。

このかるたを制作・販売しているのは、せきねめぐみ、伊達千代、星わにこ、横田良子の 4 人のフリーランスデザイナーによるフォントかるた制作チーム。2017 年にせきねめぐみが仲間内の新年会で遊ぶために試作し、その様子が SNS で大きな反響を集めたことが「フォントかるた」製品化へのきっかけになった。

2017 年には、明朝体だけの拡張パック「白」「黒」(各 12 書体)、2018 年にはゴシック体のみの「風」「雷」(各 12 書体)を発売開始。そのほかノベルティで制作した札を合わせると、全部で 123 書体分のフォントかるたを遊ぶことができる。またこれまでシリーズ累計で約 9000 部が出荷・販売されている (2019 年 7 月現在)。

書体の魅力を幅広い層に伝える

制作チームは当初、日常的に

フォントに親しんでいる人のためのマニアックなゲームだと考えていた。グラフィックデザイナーや、印刷・出版に携わる人たちだ。そのため一般的な販路は作らず、印刷博物館のミュージアムショップやイベントでの限定的な頒布を行った。しかし 500 部の初版はまたたく間に売り切れ、SNS を通じて求める声が次々と届くようになった頃、同製品を欲しがっている人がマニアだけではないことに気づいた。

有償・無償を問わず、この 10 年ほどでフォントの種類は急激に増えている。質もよくバラエティに富んだデザインのフォントを目にするだけでなく、活用できるようにもなってきたのだ。個人の創作活動や Web サイト、スマートフォンの表示フォントをカスタマイズして楽しむ人も増えた。また TV や雑誌などのメディアでもフォント特集が組まれるなど、書体による表現力の違いや機能、可読性、ユーザビリティについて、これまであまり関心のなかった人たちが興味を持ち始めていたのだ。

フォントかるた制作チームが参

加したイベントでも、「フォントってこんなに種類があるの?」「明朝体って一種類じゃないの?」「聞いたことないフォントだけどこかわいい!」「絶対無理と思ったけど、遊んでみると違いがわかって楽しい」といった声が多く、書体デザインを知りたい、覚えたい。さらにはその知識を自分の創作に役立てたいといった意欲の高まりが感じられた。

また、いま静かな人気となっているボードゲーム界隈でも、フォントかるたはユニークな“難”ゲームとして受け入れられている。ボードゲームの大きな楽しみの 1 つが、人とのコミュニケーションや知識の交換だ。特徴のあるフォントを素早く取り合ったり、見分けの難しい書体を取る際の駆け引き、そして解説を聞くことで知識が得られるのが魅力となっているのだ。

個の創作・発信がしやすい時代

フォントかるた制作チームは基本的に、それぞれの仕事の合間に SNS を使ってミーティングを行い、クラウドでファイルを共有



2017年～デザインフェスタ出展。小さな試遊スペースでは初体験の人にも遊んでもらう(上)、「フォントかるた-48書体-」書体名と解説を読み上げ、その書体の札を取る(左)

し、インターネット送稿で製品の発注作業を行なっている。年に数回のイベントや限定的な店舗委託のほかは、Amazonやhontoといったネット通販が主な販売手段だ。それぞれ仕事や家庭を抱えながら活動が続けられるのはそれぞれの得意分野を活かした分業制と、これらのネットサービスのおかげだ。

しかし同時に、制作チーム間で大切にしていることは、フォントかるたを取り巻く人やデジタルではない「モノ」の存在感だ。紙の札の手に余るほどの大きさや厚み、手触り。目に優しい印刷された文字、紙を折り上げて強度を持たせた組み箱など、ひとつひとつ大切に考えて作ってもらい、それを人と共有することの喜びがある。なにより「フォントかるた」を通じて多くの人と関わり、新たな知識を得たり、ゲームを通じて笑顔を見ることは、オンラインの世界だ

* DATE, Chiyo
フォントかるた制作チーム
font.karuta@gmail.com

けではとうてい味わえないものだろう。講演やイベントの依頼を受け、知らなかった地方へ出向くこともまた楽しい。

「愛のあるユニークで豊かな書体。」は、写植時代のデザイナーであれば誰もが首っぴきであった写研の見本帳の文言だ(許諾済み)。「フォントかるた」に収録してある書体は、ほとんどがデジタルフォントだが、一部に写植や金属活字の字影も取り入れている。アナログ回顧ということではなく、

時代や環境が変わってもいいものがずっと残って欲しい。若い人にもそのよさをぜひ見て知って欲しいという思いもある。

制作チームではさらに書体を増やす拡張パックや、フォントをより広く深く知ってもらうための書籍、欧文書体でのかるた開発などを進めている。自分たちが本当に楽しい、嬉しいと思えるものづくりを引き続き心がけていきたい。

(つづく)



フォントかるた制作チーム。右からせきねめぐみ、伊達千代、星わにこ、横田良子